

## 仕事への偏見・差別

松江市立湖東中学校 2年 阪本華帆

皆さんは、将来の夢がありますか。私は幼い頃からなりたい夢があります。それは、看護師という夢です。物心ついた時からなりたい職業は看護師しかありませんでした。

私が保育園に通っていた頃、祖母がガン治療のため一ヶ月通院していた時がありました。その時私も一緒に病院について行き、治療の様子を見ていました。治療をしている看護師さんは、注射をしたり患者さんのお世話をしたりしていて、とても忙しそうでしたが、とてもやりがいのある仕事だと感じました。

昨年から新型コロナウイルスという未知のウイルスが出てきてとても大変な世の中になってしまいました。感染者の数は、減少するどころかどんどん増加するし重症化する方の数も増す一方です。医療従事者の方は新型コロナウイルスの患者さんとそれ以外の患者さんの両方の看護をしなければならず、とても大変な状況です。その上皆さんもご存知の通りコロナウイルスは感染力が強く、薬も完成していないため、死者が沢山出るという恐ろしいウイルスです。自分がコロナ感染症にかかっているかも知れない、コロナ感染症にかかりもし家族に感染したらいけないと思って家にも帰らないで、車の中で寝泊まりをするという看護師の人たちも、もう当たり前のように見られて大変な過ごし方をしています。それなのに、「不衛生だ！」「コロナがうつる！」などの差別的な言葉を言われウイルス扱いをしている人もいます。またその看護師の子どもが通う保育園や学校に、「通わせるな」などの声も沢山ありました。

これは、医療従事者に向けられる「新型コロナ差別」です。新型コロナに関わる差別をされた医療従事者の中には、長期的に差別されて心の病になって働けなくなる人もたくさん出てきています。

普段私達は、医師や看護師に感謝して過ごしているはずですが、誰でも一度は病院にお世話になった事があるのではないかと思います。もしくは、いずれお世話になるはずですが。

自分たちが危険な目に遭うかもしれないという恐怖と戦いながらも、使命感から、新型コロナウイルス感染者の一番近くで患者の命を救おうとしている医療従事者の人達に差別的な発言を投げかけることは正しいことでしょうか。私は、自分のことよりも人のことを優先して助けて働いている人に対して差別的な発言を投げるなんて、許せません。逆に感謝を伝えるべきではないかと思います。

このような話は今の時代に限った話ではありません。看護のしかたを近代的に確立させたあのフローレンス・ナイチンゲールの当時の時代も病院は、汚いところ、身寄りのない人が行く所とされていました。ナイチンゲールは裕福な家庭で育ちまし

た。医療の現場で働く看護師は、恥ずかしい職業と言われていたので簡単に認め  
てもらえる仕事ではありませんでした。この時代の看護と今の時代の看護、医療従  
事者の人は同じような差別をされていると私は思いました。約二百年前の話なの  
に、差別してしまう人の心は変わらないところが多いと思いました。新型コロナが  
広がる前から看護師の人手不足は問題となっていました。労働時間や人間関係な  
ど様々な負担があることが人手不足の理由だと言われています。そして、コロナ禍  
により、ますます看護を含め医療に携わろうとする人が減ると思います。新型コロ  
ナに対する偏見や思い込みがなくなる限り、差別やいじめは後を絶たないと  
私は思います。悪いのは、ウイルスであって、人ではないのです。病気を理由に人  
を差別したり、職業にレッテルを貼るということは決してあってはなりません。看  
護師というのは、人の命を助ける尊い職業であると思います。だから私は看  
護師を尊敬し、看護師を目指して誇りを持てるように一生懸命努力したいと思  
います。

世の中は、色々な仕事で成り立っていてどの仕事も必ず他の仕事と繋がって  
います。私たちが使う身の周りの一つをとっても、色々な国の、色々な人の手を渡っ  
て私たちの手元に届いているのです。どの仕事も誇りをもって働くべきだし、差別  
されることは決して許されません。皆さんの心に、「あの仕事は良い」「この仕事は  
悪い」というイメージがあるなら考え直して欲しいです。職業差別や偏見がなくな  
ることが、互いの理解や平等に繋がると思います。互いを信頼し合いながら、安心  
して生きていけると信じています。科学の力で、ウイルスに打ち勝つ日が来ると信  
じています。だからこそ、その日のために、看護師の道を目指して、学び、心も体も  
鍛え職業差別のない社会を目指していきたいです。